

豊かな自然

都会に生まれ育った人の多くは自然豊かな田舎暮らしに憧れを抱くらしい。彼らの思い描く自然とは、美しい海や山、森や水田・畑なのだが、海や山は別として、それらの多くは人の手で管理されたものであって「本当」の自然ではない。

自然は都会人が考えているほど甘いものじゃない。ちょっと油断すると「草ばーぼー」になっちゃうし、得体の知れない虫も動物もいる。私は6歳まで「ど」がつく程の田舎で育った。隣家まで直線距離で500メートル以上はあっただろう。もちろん大豪邸に住んでいたわけではない。川や森や田圃・畑に囲まれていただけの話だ。夏の夜の玄関灯には無数の虫が飛び回っていたし、鬼太郎の世界から聞こえてくるのではないかと思われるような不気味な鳴き声で目を覚ますことも珍しく

なかった。

私の妻はテントウム虫を見かけただけでも大騒ぎする。虫や両生類などが苦手なのであった。彼らの中には毒を持つものもいるが、普通は死ぬほどの脅威はない。幼少のみぎり、田舎生活で鍛えられた私は多少の事では動揺しない。君だって田舎育ちなのだからその程度のことで騒がないでくれと言いたい。

ところが先日、梅ヶ沢駅から新生園へ向かって歩いていたら農作業帰りと思しきご婦人に声をかけられた。つい先ほど熊が出たとの由。新生園まではまだ1キロメートル以上あるが、梅ヶ沢側に戻るのも安全の保証があるわけではない。iPhoneでなるべく賑やかな音楽を鳴らし、茂みから熊が飛び出して来ないことを祈って足早に新生園を目

次ページへ続く▶

目次	豊かな自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・副園長 三國 潤一
	「秋バテ」にご注意ください・・・・・・・・・・臨床検査技師 佐藤 恵美子
	第28回ハンセン病コ・メディカル学術集会開催に向けて・・・・・・・・副看護師長 佐藤 美栄子
	認知症研修を開催して・・・・・・・・・・副看護師長 但木 淳子
	園内防火訓練の実施・・・・・・・・・・庶務係長 名生 和彦
	第33回高松宮記念杯近隣ゲートボール大会、三遊亭遊馬師匠慰問、夏まつり・花火大会
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・医療社会事業専門員 瀬川 将広

理 念
入所者の人権を尊重し、
安心で安全な生活を提供します

- 基 本 方 針**
1. 快適な療養・生活環境を提供します
 2. 安心で信頼される医療の充実に努めます
 3. やさしい看護と介護を提供します
 4. ハンセン病の正しい知識の啓発普及に努めます
 5. 職員の教育・研修に努めます

入所者の権利
当園では、園の理念に基づき、入所者のみなさまの

- 人格を尊重される権利
 - 良質な医療を受ける権利
 - 十分な説明と情報を受ける権利
 - 自己決定の権利
 - プライバシーが保護される権利
- を尊重します。

指した。見慣れた建物が見えて一息付いた時にはいつになく喉が渇いている事に気がついた。相当緊張していたようだ。妻にあまり偉そうな事は言えない。

全国で熊が目撃されている。宮城県では特に登米周辺に多いそうだ。秋田では4名の方が落命された。ツキノワグマは比較のおとなしいと聞いていたが、最近はそうでもないらしい。一步間違えば私の名前も新聞に載っていたかも知れない。犠

牲になった方々のご冥福をお祈りするとともに、自らの無事を八百万の神に感謝した。

新生園の周りは自然が多い。熊だけでなく妖怪の二三匹くらいなら潜んでいておかしくないと思わせる雰囲気漂っている。園内の安全のため、警備会社による巡視を行うこととなった。少なくとも入居者の皆様の安全は確保できたと思う。それでも園外では油断できない。しばらくは熊が出そうな所には近づかないようにしよう。

副園長 三 國 潤 一

「秋バテ」にご注意下さい

秋は爽やかな風とともに、透き通るような空の青さも印象的ですが、秋になった途端に体調不良になるということをよく聞きます。涼しくなって過しやすいはずの初秋に、体がだるい、食欲がない、疲れやすいといった体の不調が現われることを、近年では「秋バテ」と言われるようになりましたが、皆さんはご存知でしょうか？「秋バテ」の原因や解消法を知って、秋バテに負けない体を作りましょう。

■どうして「秋バテ」になるのか？

①朝と晩の急激な気温変化

夏から秋の変わり目は、日中は半袖で過ごせるほど気温が高く、夜は長袖のパジャマと布団が必要になるくらい冷える日もあります。また、日中の気温も日によって異なり、その気温差に体が対応しきれないことで体調を崩しやすくなります。

②秋の長雨と台風

初秋には雨の日が多く、気分が落ち込みがちになります。さらに台風の襲来で気圧も乱れやすくなります。そのため頭痛、めまいなど、様々な体調不良を誘発しやすくなります。

②夏の生活習慣によるもの

夏の時期に身についた生活習慣によって、体が冷えてしまっている場合があります。肌寒い日でも冷えたビールや飲み物を飲む、夜も薄着のままで歩くなど、夏と同じような生活習慣を続けてしまうと、疲れが出やすくなってしまいます。

■秋バテを解消するには？

①食事：食事によって夏の間暑さで消耗した体力を取り戻し、弱った胃腸を回復させることが大切です。食事の基本である「1日3食」「規則正しく」「バランスよく」を心がけましょう。

②入浴：37～39℃のぬるめのお湯につかると、体内の副交感神経が優位になり、体が睡眠モードに切り替わります。また、冷房などで冷えてし



まった体を温め、体力の回復、胃腸の回復を助けてくれます。

③運動：少し汗をかく程度の適度な運動は、血行をうながし疲労感を和らげる助けになります。朝夕の涼しい時間帯のウォーキングなどの軽い運動がお勧めです。



臨床検査技師 佐藤 恵美子

第28回ハンセン病コ・メディカル学術集会開催に向けて

第27回ハンセン病コ・メディカル学術集会（以下、コ・メディカル学術集会）は平成27年11月27日～28日と2日間、熊本の国立療養所菊池恵楓園で開催されました。副看護師長としての取り組みのポスター発表の他、次年度は当園がコ・メディカル学術集会主催の為に開催の成功に向けて、菊池恵楓園の会場の設営や進行等企画運営をどのように行っているのか関心と期待を抱きながら参加しました。また、私はこのコ・メディカル学術集会で初めて座長を経験しました。

座長の私は、発表をスムーズに進行し、質疑応答により参加者同士の交流を深めるという役割を果たせるのかという思いで最初から最後まで大変緊張しました。時間内に無事終了した時には心からホッとしたと同時に「できた！」という達成感を感じたのを覚えています。菊池恵楓園の施設見学では、参加者はグループに分かれ、広い園内を歴史も踏まえながら職員が一つ一つ丁寧に説明し案内し



てくれました。また、施設見学をしながら他の施設の職員と交流を持つこともできました。コ・メディカル学術集会の2日間を通して、菊池恵楓園職員の団結と歓迎の気持ちが伝わってきました。

今年度のコ・メディカル学術集会は当園主催で、平成28年10月14

日～15日の2日間開催します。今年のテーマは「大切にしたいあなたとのきずな」です。教育講演は、NHO 仙台医療センター 救命救急センター長・救命救急部長・チーム医療推進室長の山田康雄先生、特別講演は、国立療養所長島愛生園基本治療科医師（元皮膚科医長）尾崎元昭先生となっています。会場は仙台駅に隣接してある仙台情報・産業プラザ（AER）で開催します。

東日本大震災から5年の節目でもあり、参加者には復興した宮城も観て頂きながら有意義な2日間にして欲しいと思います。施設見学で

**第28回 ハンセン病
コ・メディカル学術集会**

日時：平成28年10月14日(金)～15日(土)
会場：仙台情報・産業プラザ（AER）5階
宮城県仙台市青葉区中央1丁目3-1
主催：国立療養所東北新生園

大切にしたい あなたとのきずな

お問い合わせ先
国立療養所東北新生園
〒980-4692 宮城県登米市迫町新田字上原ノ木沢1番地
TEL 0228-38-2121・FAX 0228-38-3765
メールアドレス comed28@sinseien.nhds.go.jp
ホームページ http://www.nhds.go.jp/~sinseien

は自然豊かな東北新生園の秋の風景も見どころなので是非いらして下さい。参加して下さいの皆さんが気持ちよく「宮城に来て良かった」「参加して良かった」と言って頂けるよう、職員みんなで“おもてなしの心”でお迎えします。それではコ・メディカル学術集会でお会いしましょう。

第一病棟 副看護師長 佐 藤 美栄子

認知症研修を開催して



平成 28 年 6 月 24 日金曜日、国立療養所多磨全生園認知症看護認定看護師 兼次美恵子先生を講師にお迎えし認知症研修を開催しました。全職員を対象とし、全職種から 50 名の参加がありました。当園の入所者の平均年齢は、85.9 歳と高齢で、認知症または認知症が疑われる症状が見られる入所者は全入所者 71 名中約 25%を占めています。この為、認知症の入所者の対応を理解することを目的とし毎年研修を開催してきました。し

かし、介助を拒んだり、亡くなった家族を探す行動をとる入所者に対してどうしたら良いか等、日々の看護・介護を通して対応の難しさを感じる場面が増えてきました。そこで今回は、認知症の基礎知識と対応のポイントをハンセン療養所の認定看護師に依頼しました。

その上で事例を用いて実践にいかせる行動を考える研修としました。講義では、老化による物忘れと認知症は違うことや認知症には 3 つの認知症があり、脳の変化の違いや特徴的な症状について講義がありました。認知症には、中核症状や周辺症状が必ず出現し、その症状に対し、1) 間違っただけを言っても否定しない 2) ゆっくり見守る 3) 自分が認知症になった時



これは嫌だなと思うことはしないよう努力することを心掛けて接する 4) 出来ることは時間がかかってもご本人にやっていただくことで自尊心が保たれ、いきいきとした生活を営むことにつながる等、今までの認知症の方への関わり方が本当に良かったのかと看護を振り返る良い機会になりました。

次に当園での認知症入所者の事例をもとに、講師の先生からアドバイスを頂きました。身近な事例だっ



た為、質問もあり講師と良いディスカッションが出来ました。入所者の行動から思いを知り、入所者の思いを尊重した業務の見直しや体制作りも必要であることを学ぶことができました。

当園も高齢化で認知症の入所者は増えて行くと考えられます。今回の講義から学んだことを活かして、入所者がその人らしく生活して行けるように看護・介護していきたいと思います。

第1メープルケアセンター 副看護師長 但 木 淳 子

園内防火訓練の実施

平成28年7月6日（水）午後から防火訓練を実施いたしました。

今回は夜間に火災が発生した場合を想定し、当直医師を総括指揮者、事務当直者と当直看護師長を本部付として夜間の勤務体制と宿舎の職員が応援に駆けつけるという内容です。

出火場所は火災発生通報まで秘密にされており、非常ベルを聞いて、火元確認者、避難誘導担当者などそれぞれ本番さながらに緊張感をもってテキパキと行動していました。



本年4月には熊本県を中心とした九州地方を大きな地震が襲い、関係者の間でも東日本大震災の惨事が頭をかすめ、改めて避難訓練・災害準備の大切さを入所者・職員の皆が痛感し訓練に望むこととなったのは言うまでもありません。

防火訓練終了後には最近恒例となっている災害時を想定した炊き出し訓練を昨年の反省を生かし準備万端にし、当日を迎えるだけとなっておりましたが、当日は朝から雨天のため、残念ながら中止となってしまいました。

当日は、担当の消防署から6名の消防士に立ち会いをいただき、最後に「訓練をしておかないと本番では絶対動けないので、これからも多くの訓練を積んでほしい」との講評をいただきました。

今回の訓練で実施したことを振り返り、日頃から災害時には行動出来るよう考えていきたいと思います。

最後に本訓練の準備にご協力いただいた皆様、訓練当日業務の合間に参加をいただいた皆様、ご協力ありがとうございました。

庶務係長 名 生 和 彦



6月30日 第33回高松宮記念杯近隣親善ゲートボール大会が開催されました。

6月25日は、ハンセン病の予防と救済に関心をよせられていた貞明皇后の誕生日で、1964（昭和39）年からはこの日を含む1週間が「ハンセン病を正しく理解する週間」となりました。また2009（平成21）年から、6月22日は「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」と定められており、この日が含まれる前後は各地でハンセン病に対する正



しい知識の普及と差別撤廃の啓発活動が行われています。

今年は新生園グラウンドにおいて宮城県内外から合計50チーム参加のもとに開催いたしました。

あいにくの雨模様の天候でしたが白熱した試合が展開され、一関千厩チームが優勝しました。



7月8日 三遊亭遊馬落語慰問

昨年も慰問に訪れて下さった三遊亭遊馬師匠が、今年は三遊亭遊かりさんと女性では初めてという紙切り芸の林家花さんの3名で、東北新生園入所者自治会楓会発会70周年記念寄席を開催して下さいました。

三遊亭遊かりさんは「与太郎」の噺で会場を沸かせ、林家花さんは会場からリクエストを募りながら紙切り芸を披露、そして三遊亭遊馬師匠は迫力満点に「佐野山（別名：谷風の人情相撲）」を披露して下さいました。



三遊亭遊馬師匠



三遊亭遊かりさん



林家花さん



7月23日 夏まつり・花火大会

第18回目となる夏まつり・花火大会は、入所されている方々への慰問及び地域住民のみなさんとの交流を深めることを目的として開催されています。

今年は長年にわたりこの花火大会を開催して下さっている元副園長の森芳正先生が第44回医療功労賞受賞されました事を記念して、最も花火がよく見える睦ヶ池の畔に受賞記念碑を建立し、除幕式を執り行いました。



また物故者慰霊の灯籠流し式もあわせて執り行いました。



午後3時から夏まつりが開催されました。

園内の睦ヶ池の辺に建つ新生会館に催し物会場やエアドームが設けられ、多くの子ども達が輪投げやくじ引き、金魚すくいを楽しんでいました。

また夜7時からは花火大会が行われました。例年にも勝る大輪の花火に会場のお客様からも大きな拍手と歓声が沸き上がっていました。

花火大会

夜の灯籠の様子



職員募集

当園では、次のとおり職員を募集しております。採用を希望する方はお気軽にお問い合わせください。

1. 採用職種
 - ①看護師 ②看護助手
- 1) 身分
 - ①定員職員 ②期間業務職員
- 2) 採用予定期間及び採用人員
 - ①採用の日～ 2名
 - ②採用の日～ H29. 3. 31 7名
(年度更新)
- 3) 応募資格
 - ①看護師免許取得者 ②経験・資格不問(どなたでも応募できます。)
- 4) 勤務内容
 - ①看護業務(三交替制、早出・遅出有り)②介護業務(日勤、早出・遅出有り)
 - ①②1日あたり 7時間 45分 週 38時間 45分勤務
- 5) 加入保険等
 - ①共済保険、共済年金 ②協会けんぽ、厚生年金 に加入
 - ※②の職員は、1年経過後から共済保険に加入となります。
- 6) 応募方法

市販の履歴書に写真貼付、看護師は免許証(写)を郵送又は持参
豊かな自然に恵まれ、四季折々の行事、数々の訪問行事を行っておりますので、
入所者の皆さんと関わり合いながら楽しみながら当園で働いてみませんか。
看護・介護の研修体制も充実しておりますので、
初めての方も心配なく安心して働くことができます。
興味のある方は、当園のホームページに、看護課の方針、看護体制、研修計画、
処遇等を掲載しておりますので是非ご覧いただき、お気軽にお問い合わせください。
- 7) お問い合わせ、応募先

〒989-4692 宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1

国立療養所東北新生園

TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765

E-mail 2302sy01@sinseien.nhds.go.jp

入所者数の推移

年度	入 所 者 数			退 所 者 数					平均入所者数
	再	新	計	軽快	死亡	転園	その他	計	
18			0		7			7	156.2
19			0		7			7	148.4
20			0		10			10	139.9
21			0		2			2	135.2
22			0		10			10	129.4
23			0		14			14	118.0
24			0		11			11	105.1
25			0		10			10	95.3
26			0		4			4	86.7
27			0	2	9			11	79.6



発行元 国立療養所東北新生園
National Sanatorium Touhokushinseien

発行責任者 国立療養所東北新生園
広報誌編集委員会

〒989-4692
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765
URL <http://www.nhds.go.jp/sinseien/>
E-mail admin@sinseien.nhds.go.jp